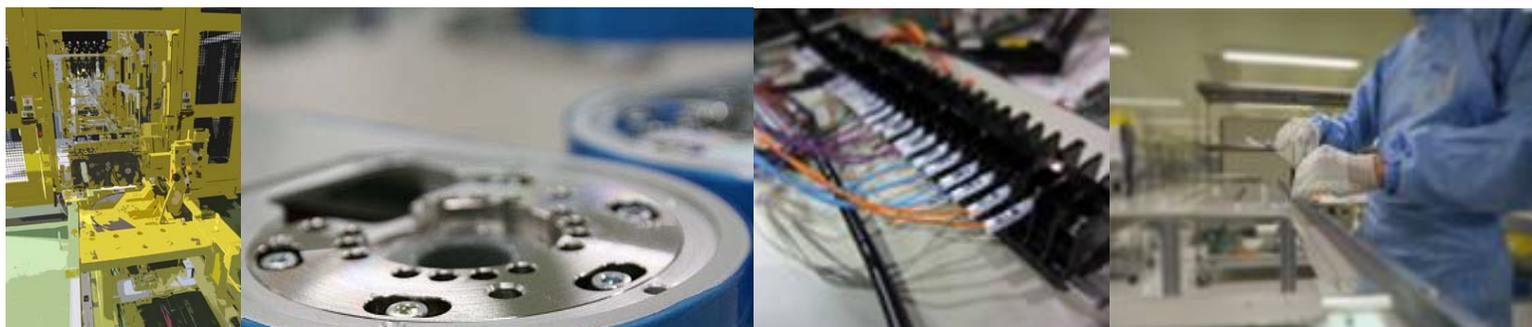

2012年3月期 第2四半期 決算説明資料

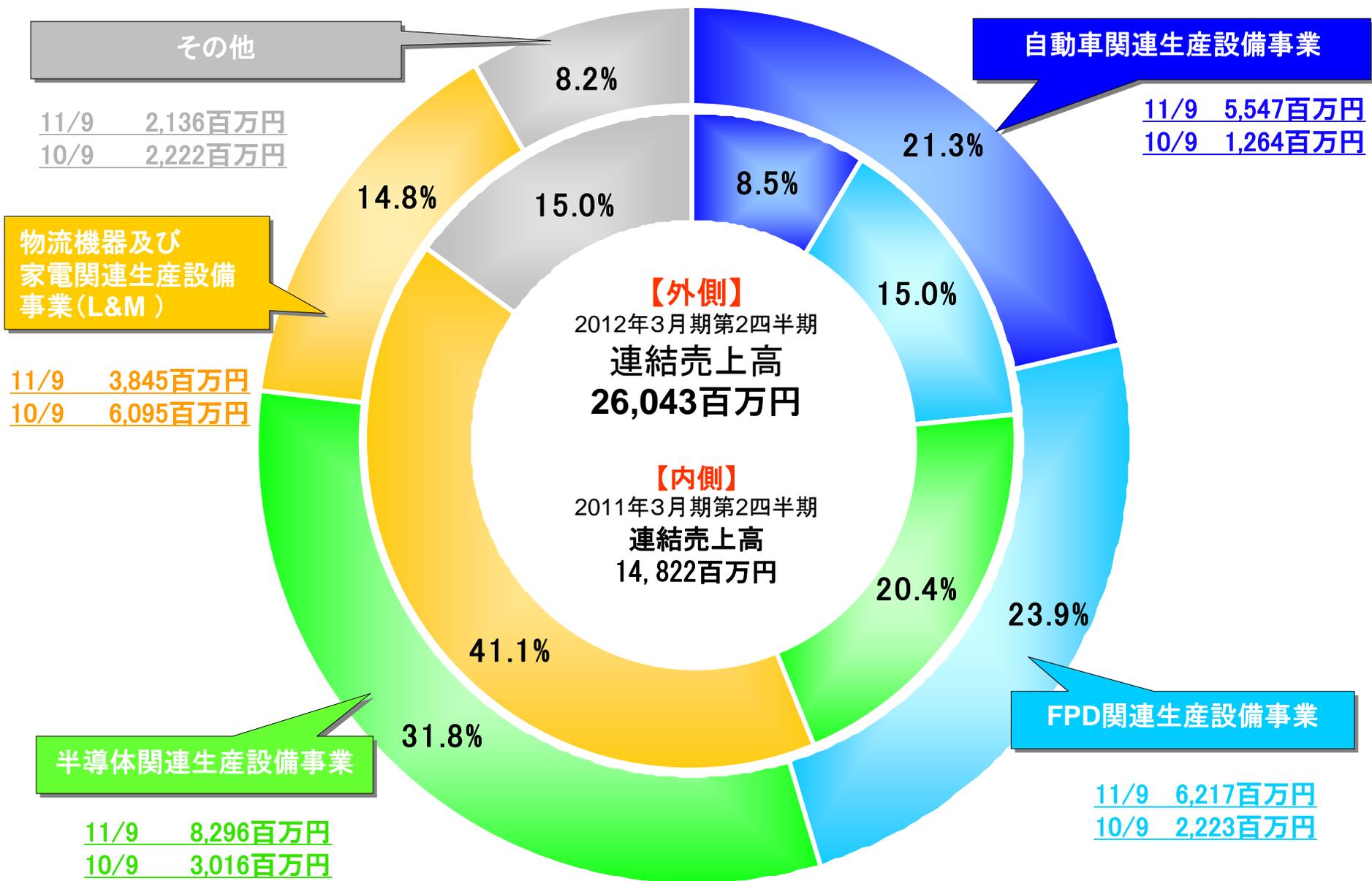
平田機工株式会社 2011.11.22



I 決算状況

2012年3月期 第2四半期（2011年9月30日）

I 決算状況 事業部門別売上高構成比



I 決算状況 決算概要

決算概要

- 売上高は対予想比では未達だが、第2四半期としては過去最高。
- 営業利益、経常利益、当期純利益は対予想比では未達だが、黒字確保。
予想とのズレは海外子会社で売上予定案件が下半期にずれたことや一部の国内子会社の売上不振などによる。

(単位:百万円)

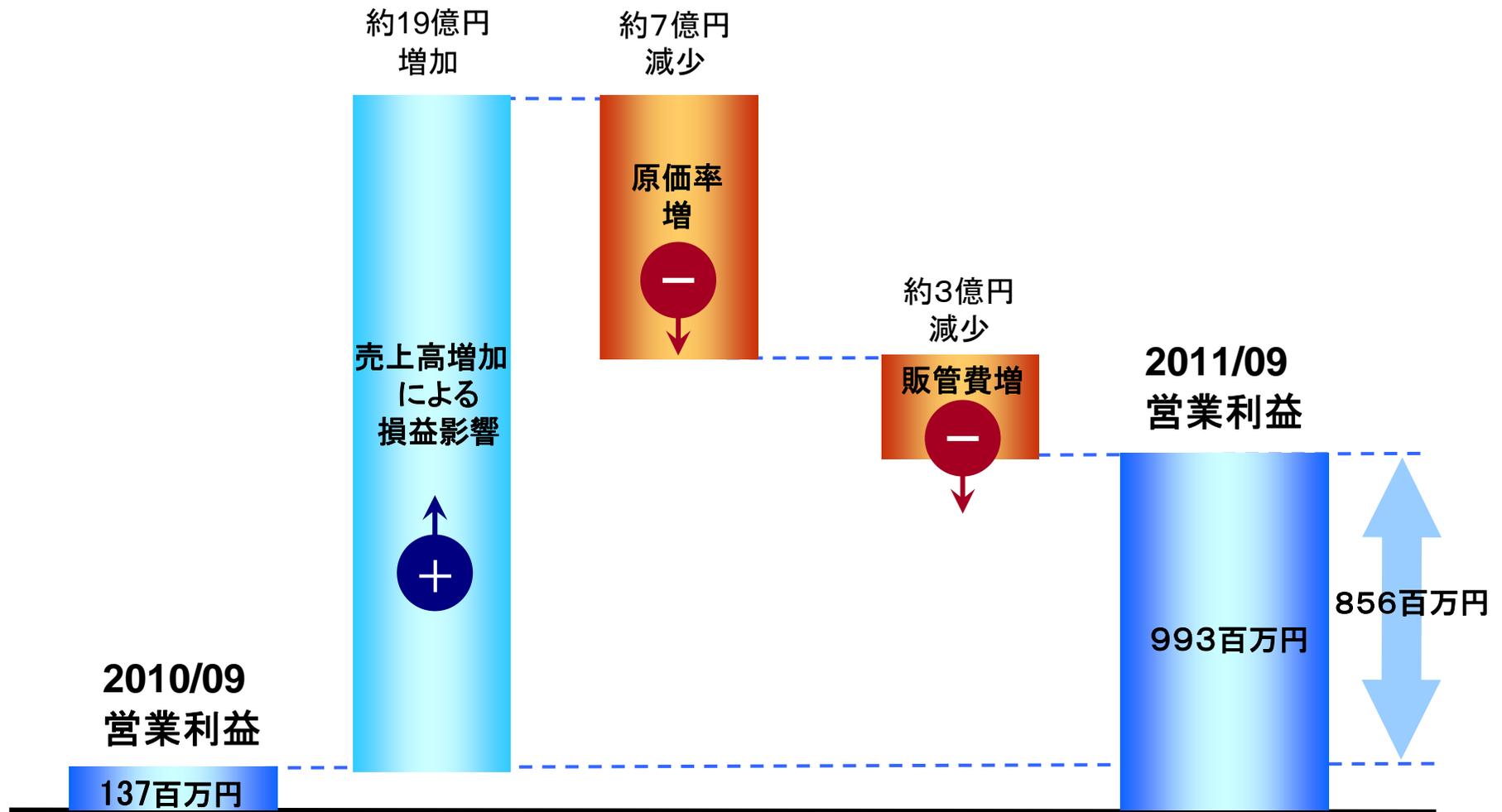
連結決算	2011年3月期	2012年3月期 第2四半期		増減率	
	第2四半期 実績	期首予想	実績	対前年同期比	対期首予想比
売上高	14,822	27,500	26,043	+75.7%	△5.3%
営業利益	137	1,200	993	+625.0 %	△17.2%
経常利益	54	1,100	945	+1,650.8%	△14.0%
四半期純利益	398	600	391	△1.7%	△34.7%

受注高	21,227		21,817	+2.8%	
受注残高	20,922		17,127	△18.1%	



■ 11年3月期 2Q ■ 12年3月期 2Q

I 決算状況 営業利益の増減要因分析



I 決算状況

事業部門別実績 連結売上高

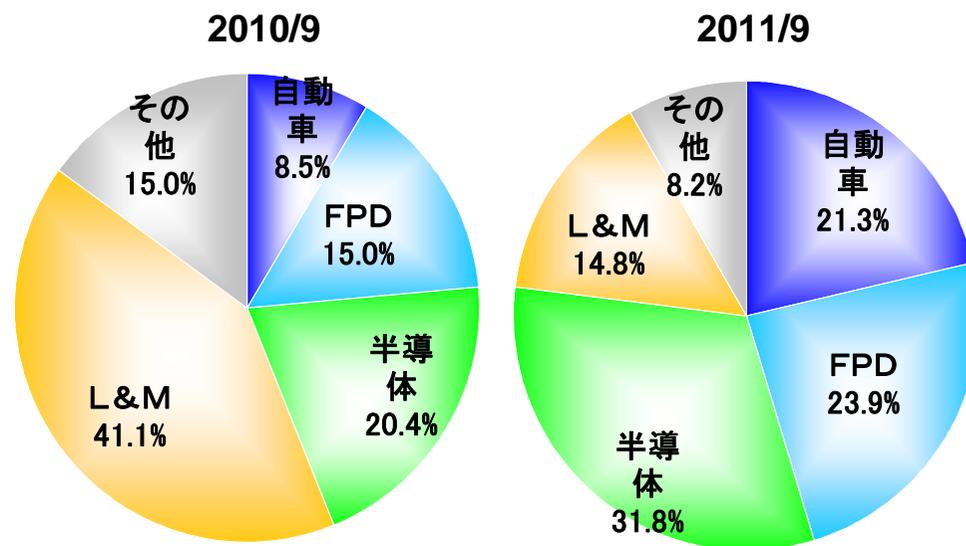
■ L&M関連は減少したものの、他の事業部門の大幅な増収により増収。

- ・ 自動車関連設備は、北米完成車メーカー向けなどの売上により大幅に増収 (+338.8%)
- ・ FPD関連設備は、国内、中国などの液晶メーカー向けの売上増により増収 (+179.6%)
- ・ 半導体関連設備は、半導体市場の回復に加え、大型の製造委託案件の売上が堅調に推移し増収 (+175.0%)
- ・ L&M関連設備は、前年同期に堅調であったタイヤ関連の売上が減ったことなどから減収 (△36.9%)

事業部門別売上高の状況

単位:百万円

事業部門	2010/9	2011/9	対前年同期比 増減率
自動車	1,264	5,547	+338.8%
FPD	2,223	6,217	+179.6%
半導体	3,016	8,296	+175.0%
L&M	6,095	3,845	△36.9%
その他	2,222	2,136	△3.9%
合計	14,822	26,043	+75.7%



I 決算状況 事業部門別実績 連結受注高

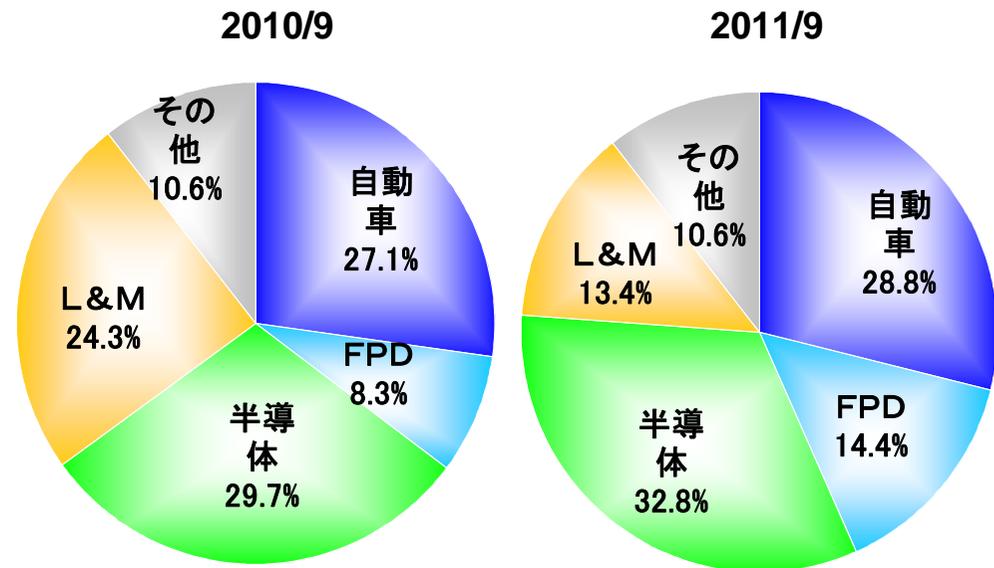
■ L&M関連の減少を他部門の増加が補い、全体では微増。

- 自動車関連設備は、北米完成車メーカーや国内の自動車部品メーカーからの受注により増加(+9.3%)
- FPD関連設備は、国内メーカーからの受注が堅調に推移し、増加(+79.0%)
- 半導体関連設備は、引き続き大型の製造委託案件の受注が堅調に推移し、増加(+13.6%)
- L&M関連設備は、北米半導体関連企業からの受注が堅調であったものの、前期比では減少(△43.4%)

事業部門別受注高の状況

単位:百万円

事業部門	2010/9	2011/9	対前年同期比 増減率
自動車	5,759	6,292	+9.3%
FPD	1,758	3,147	+79.0%
半導体	6,291	7,145	+13.6%
L&M	5,164	2,922	△43.4%
その他	2,253	2,308	+2.5%
合計	21,227	21,817	+2.8%



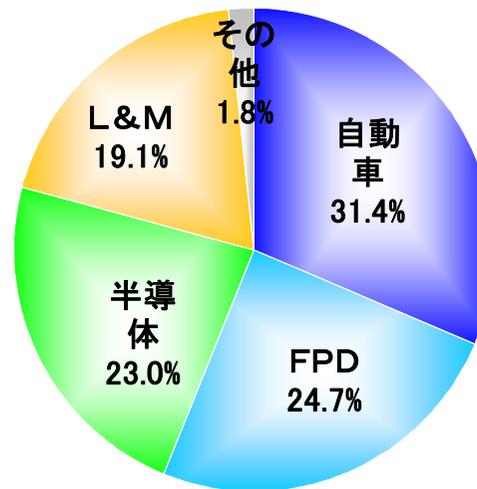
■売上高の増加に対し、受注高が微増に留まり、受注残高は減少。

事業部門別受注残高の状況

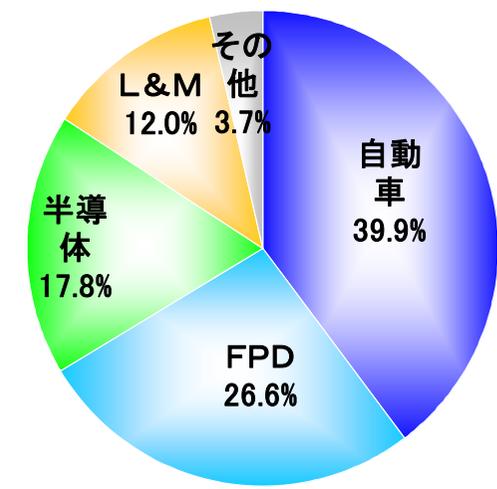
単位:百万円

事業部門	2010/9	2011/9	対前年同期比 増減率
自動車	6,579	6,821	+3.7%
FPD	5,169	4,561	△11.8%
半導体	4,817	3,052	△36.6%
L&M	3,988	2,053	△48.5%
その他	366	638	+74.3%
合計	20,922	17,127	△18.1%

2010/9



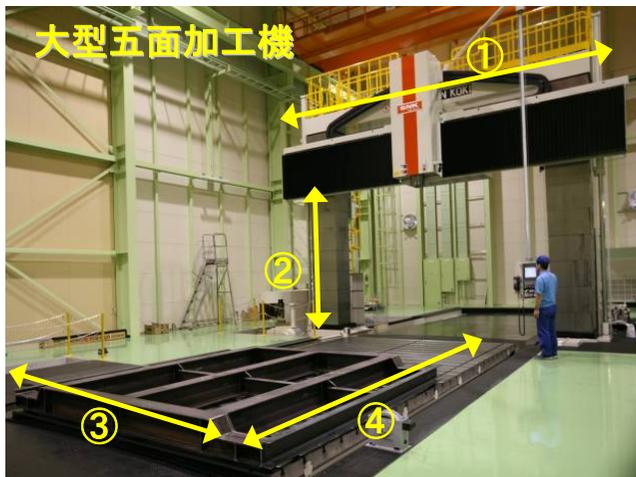
2011/9



II トピックス

熊本工場に新棟増設／大型五面加工機導入

■8月、熊本工場敷地内に新しく工場棟を増設。一般機械用としては世界最大級となる五面加工機を導入し、9月1日から稼働を開始しました。

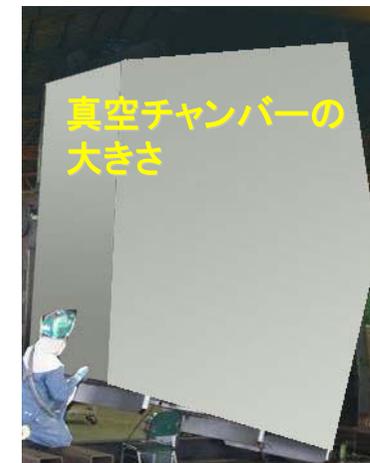


大型五面加工機

この五面加工機は、世界最大級真空チャンバーの加工にも対応でき、この導入により「大型、高精度、短納期」の内製能力を拡大し、もの造りの能力を更に向上させてまいります。

大型五面加工機

- | | |
|---------------|-----------------|
| ①門幅: 5,000mm | ③テーブル幅: 4,000mm |
| ②門高さ: 3,200mm | ④テーブル長: 8,000mm |



真空チャンバーの大きさ

新型FOUPオープナ及びウェーハ搬送ロボット開発

■高性能300mm対応FOUPオープナ、新型ウェーハ搬送ロボットを10月にリリース。高速動作・クリーン性能・メンテナンス性・機能の向上により、お客様の生産効率向上に貢献します。

<300mm対応FOUPオープナ KWF-12E2>



- 次世代の回路線幅22nm(ナノメートル)半導体製品への対応が可能な清浄空間の確保
- 業界トップクラスの高速動作
- ウェーハの酸化防止を目的とした窒素充てん機能など

<ウェーハ搬送ロボット AR-Wn180CLシリーズ>



- シングルアーム、ツインアーム、反転軸、リスト軸、ロングストローク昇降軸など豊富なバリエーション
- 業界トップクラスの各軸動作速度
- 自社独自の制振制御による振動防止など

Ⅲ 市場動向および 2012年3月期業績の見通し

Ⅲ 事業環境

各事業分野とも震災の影響から脱し、回復基調にあるが、欧州の経済危機や北米経済の低迷、それに伴う円高基調などにより、設備投資の動向には依然不透明感が続く。

自動車関連事業

北米メーカーは、GMが1～6月の新車販売台数で首位になるなど、堅調に回復し、今後も設備投資が続く見通し。日系メーカーも震災復興に伴い、回復基調にあるが、円高やタイの洪水の影響が懸念材料となる。

FPD関連事業

国内のTV市場は地上デジタル放送化後、急激に低迷。スマートフォン等の需要は続くが、PCの販売低迷もあり、FPDパネル価格は下落。設備投資の鈍化が懸念される。

半導体関連事業

スマートフォンなどモバイル機器の販売好調を背景にNAND型フラッシュメモリーは需要増が続くが、一方でPCの販売低迷によるDRAM需要は低迷。半導体製造装置の投資先送りなども予想される。

L&M関連事業

家電関連は引き続き、アジア向け需要が増加するものと見込まれる。タイヤ関連は、国内では震災による低迷を脱し回復基調にある。海外向けは新興国を中心に更なる成長が続くものと見込まれる。

※11月10日に第2四半期業績の修正を発表しました。通期予想に修正はありません。

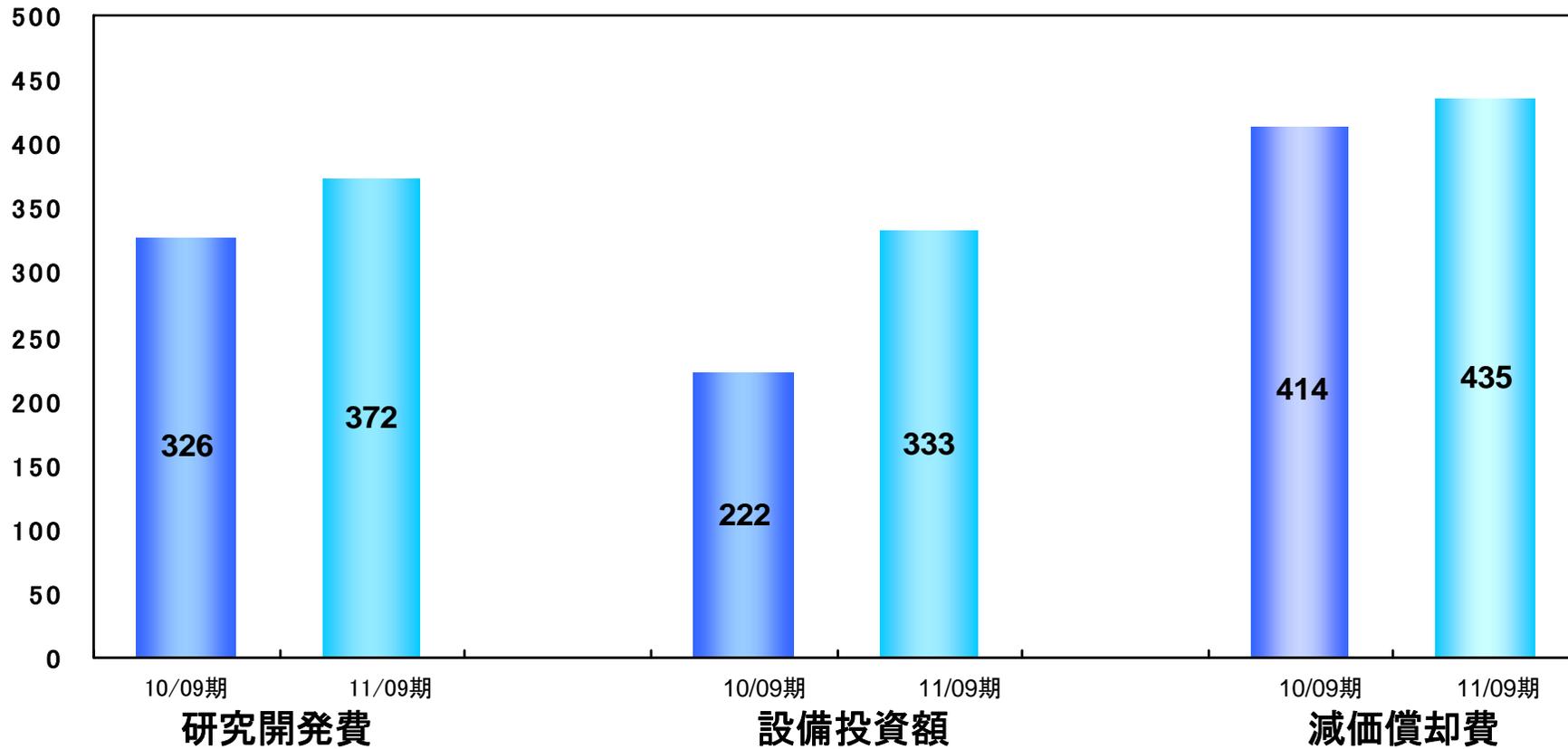
(単位:百万円)

	2011年3月期 実績	2012年3月期				前期比 増減率
		上期	下期	通期		
売上高	44,142	26,043	23,956	50,000	+13.3%	
自動車関連	6,193	5,547	5,052	10,600	+71.1%	
FPD関連	9,299	6,217	5,882	12,100	+30.1%	
半導体関連	12,230	8,296	6,403	14,700	+20.2%	
L&M関連	11,626	3,845	4,354	8,200	△29.5%	
その他	4,792	2,136	2,263	4,400	△8.2%	
営業利益(率)	1,781(4.0)	993(3.8)	606(2.5)	1,600(3.2)	△10.2%	
経常利益(率)	1,554(3.5)	945(3.6)	454(1.9)	1,400(2.8)	△10.0%	
当期純利益(率)	941(2.1)	391(1.5)	408(1.7)	800(1.60)	△15.1%	

IV 参考資料

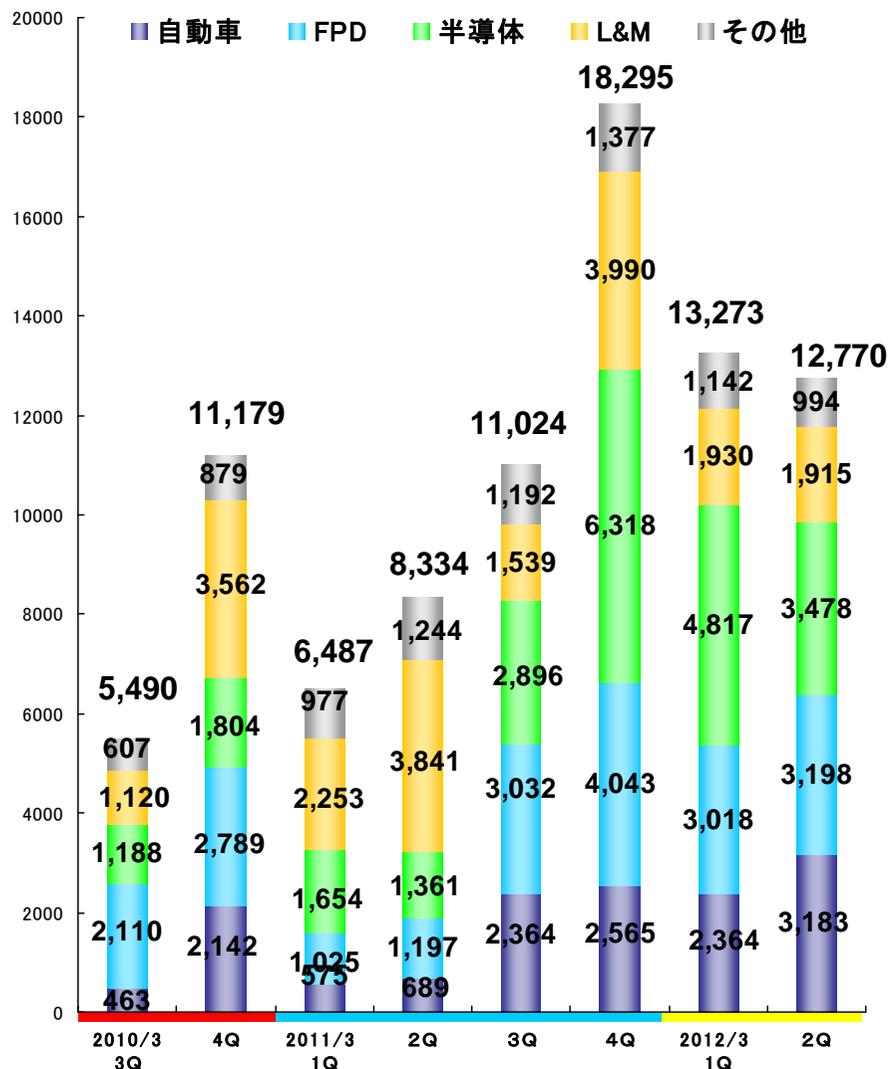
2012年3月期 第2四半期（2011年9月30日）

百万円

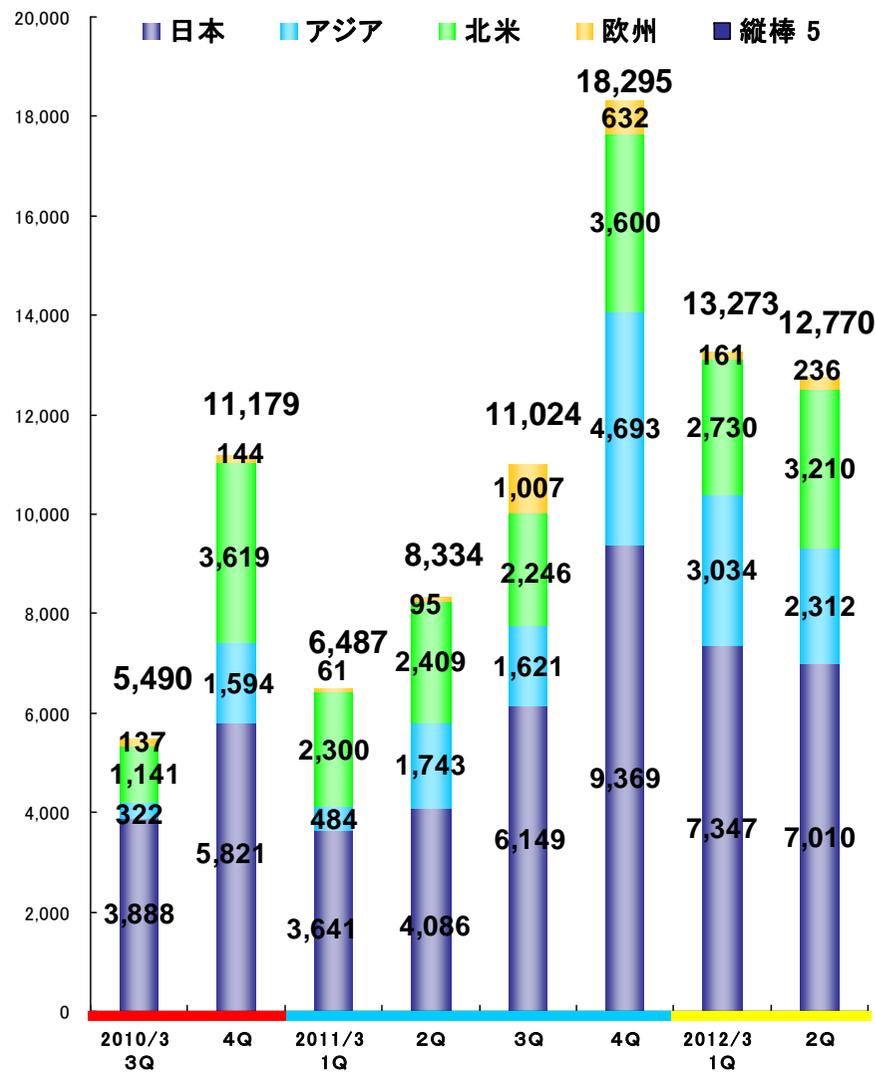


IV 参考資料 事業部門別・地域別四半期推移(売上高)

事業部門別四半期売上高の推移

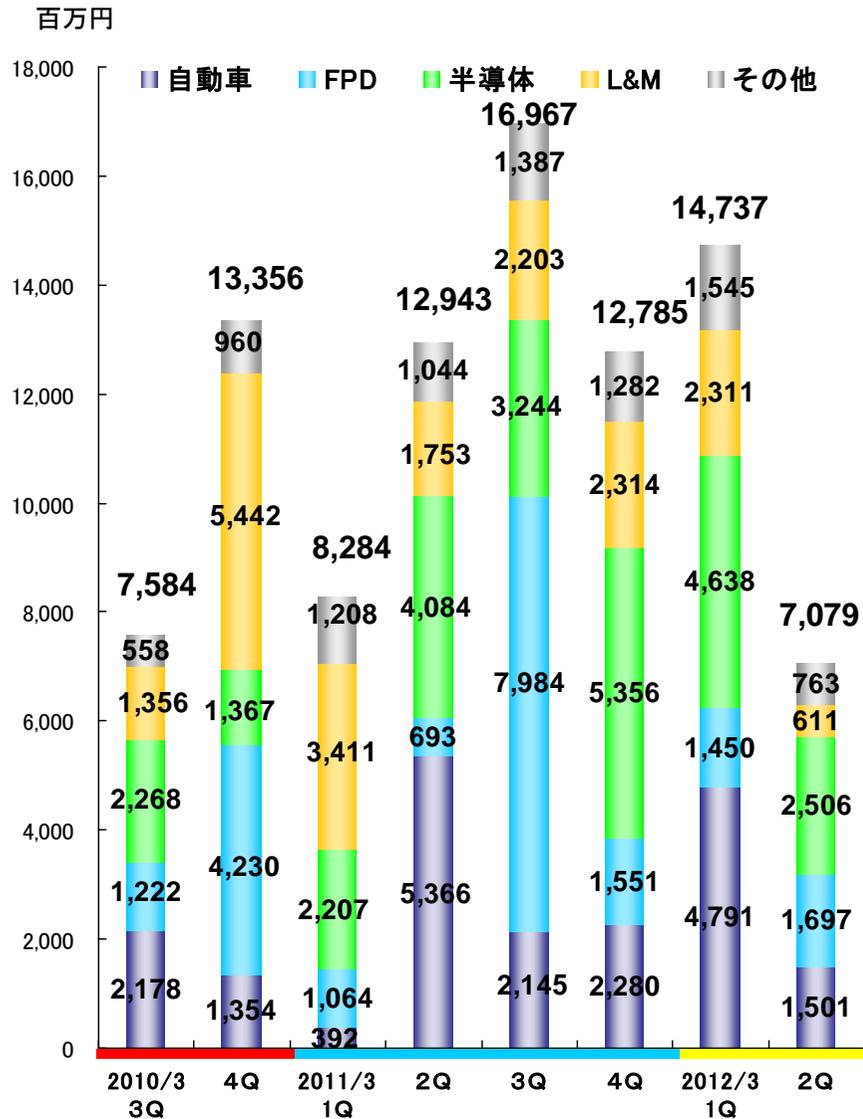


地域別四半期売上高の推移

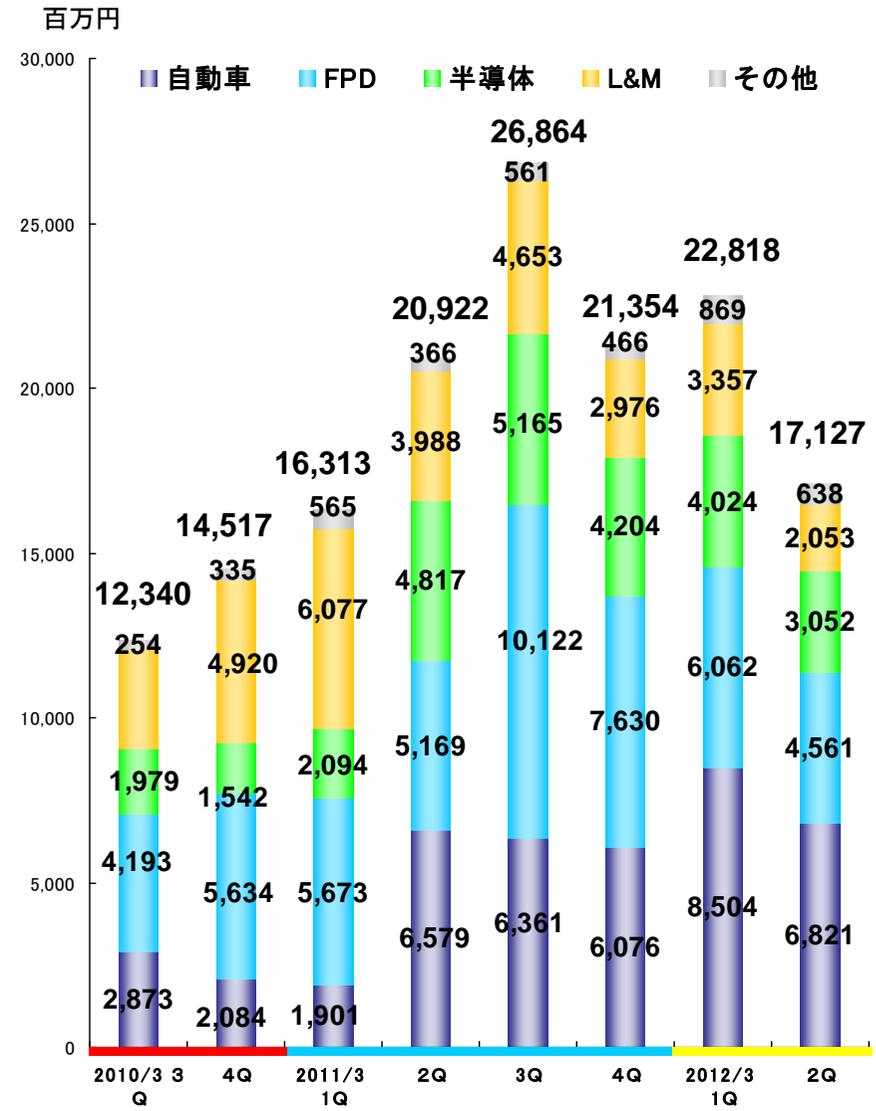


IV 参考資料 事業部門別四半期推移(受注高・受注残高)

事業部門別四半期受注高の推移

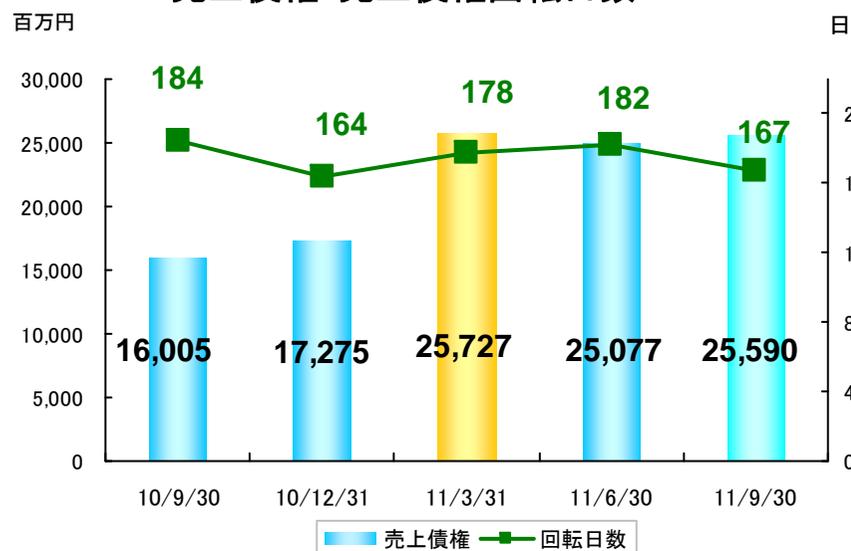


事業部門別四半期受注残高の推移

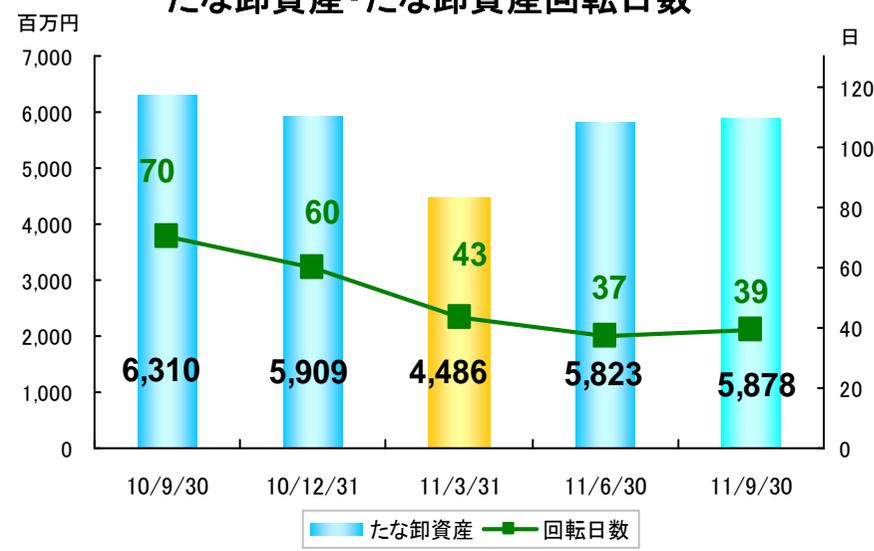


IV 参考資料 主要指標

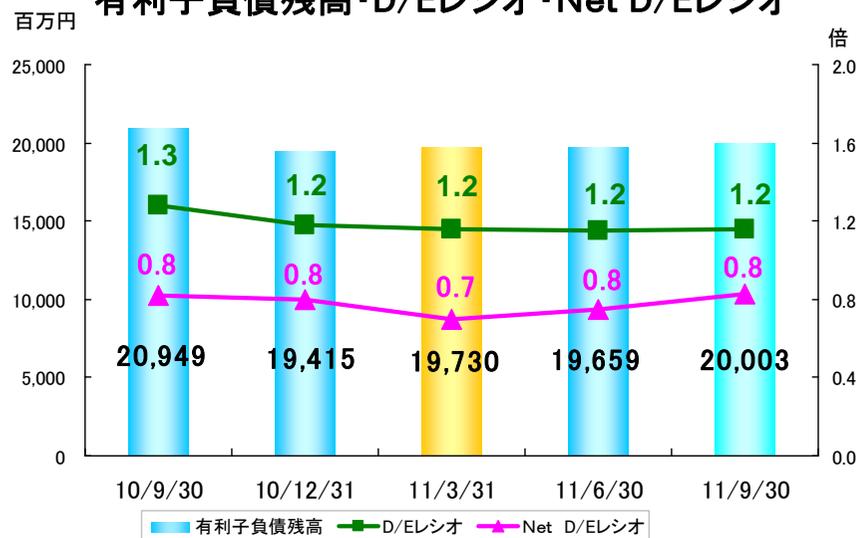
売上債権・売上債権回転日数



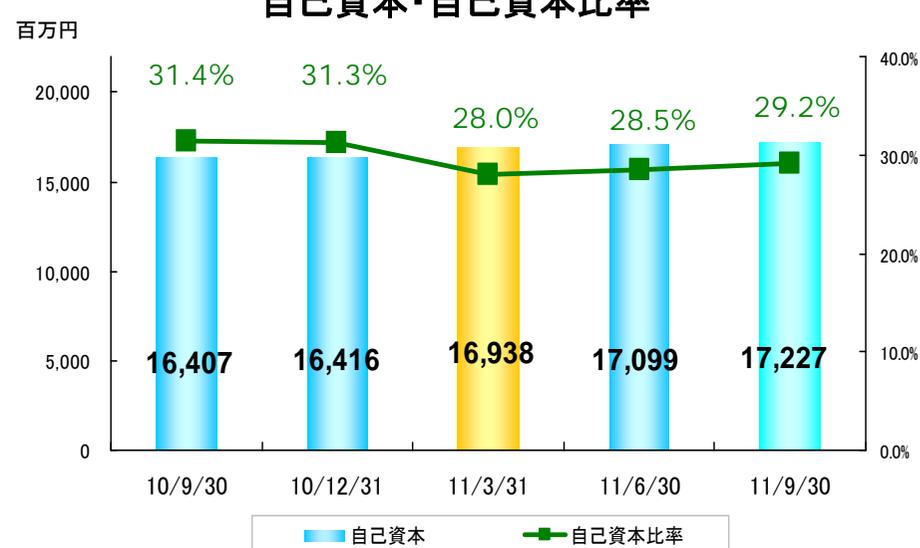
たな卸資産・たな卸資産回転日数



有利子負債残高・D/Eレシオ・Net D/Eレシオ



自己資本・自己資本比率



注) 売上債権回転日数、たな卸資産回転日数については、各四半期毎の期中平均値にて算出しております。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、経済動向、他社との競争状況、為替レートなど潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることあることをご承知おきください。